

# 第5次法吉地区地域福祉活動計画

(平成31年4月～平成36年3月)

平成31年3月  
法吉地区社会福祉協議会  
松江市法吉公民館

## <はじめに>

法吉地区社会福祉協議会では、平成26年度に策定した「第4次地域福祉活動計画」の活動期間満了に伴い、この度、平成31年度から平成35年度の5年間の活動計画とする「第5次地域福祉活動計画」を策定した。

策定にあたり、平成30年8月に「第5次法吉地区地域福祉活動計画策定委員会」を立ち上げた。私たちが生活する地域でも、急激に少子高齢化・核家族化が進み、家族関係や地域社会における人と人とのつながりが薄れ、将来への不安や様々な生活課題・福祉課題を抱える人々が増加している。一方、先ごろの広島・岡山の土砂災害、県内西部の地震・豪雨災害など緊急時の教訓として、これまで以上に今、地域での「絆（結びつき）」を深め、支え合う仕組みづくりに一層取り組んでいくことが大切であることに気づかされる。

策定委員会では、このような背景をもとに、数次にわたる会議・検討を重ねました。まず、第4次計画に基づく活動計画の評価を行うとともに、ワークショップを通して、直接、住民の方々の意向や地域を取り巻く状況の変化を把握することに努め、松江市地域福祉計画等で示された行政施策、また、「社会的孤立者への支援・次世代づくり」といった新しい視点を盛り込んで「第5次法吉地区地域福祉活動計画」を策定した。

今後5年間、この計画に基づいて事業を展開し、実現に向けて、地域住民の参画と協働による「だれもが支え合う地域共生社会の実現」をスローガンに力を合わせて進む事を願っている。

## 1、法吉地区の概要

法吉地区は松江市の北部に位置し、昭和23年に旧法吉村と松江市が合併した地区である。当時は農村地帯であったが、昭和40年代半ばより徐々に団地造成や宅地開発が進み人口の流入が続き、新旧住民が混在する地域社会を形成するようになった。平成12・13年度、公民館区の再編により、8自治会が近隣地区に移り、人口、世帯数ともに大きく減少したが、新たな団地造成やマンションの建設等によりその後も年々増加傾向が続いた。

平成21年からは、人口12,000人台になり、平成23年には、世帯数も5,000世帯をこえる規模となった。平成30年10月現在、人口12,606人、5,342世帯17自治会となっている。

春には、地名のもととなった法吉鳥（ウグイス）の声が聞かれ、また、夏には、北田川

の上流などでは虫も飛び交っている。中世には毛利と尼子の戦場となった真山、白鹿山もあり歴史と自然に恵まれた地である。地域の生活環境は JR 松江駅や中心市街地にも比較的近く、幹線道路の整備も進んできた。スーパーマーケットや小売店、金融機関、医療施設、福祉施設も整備され、日常生活は便利になっている。ただ、朝夕のラッシュ時には幹線道路の込み具合は増していることや地域の交通手段にはさらに改善が望まれる。教育環境にも恵まれ、近年は保育所、保育園も増えている。

伝統的に公民館と自治会が核となり、「まちづくり」・「コミュニティーづくり」の活動が活発に行われている。地区内には、まちづくり協議会、地区社会福祉協議会、地区体育協会など住民による多くの地域団体が設立され、それぞれの機能を発揮し、より活発な地域活動が続いている。

## 2、前回計画の振り返り

平成 30 年 1 月 31 日の第 4 次策定委員会において第 4 次計画の評価を行った。項目別の評価は、次のとおりであるが、まだ計画期間を残しているものの概ね順調に推移し、ほぼ達成されているとのことであった。項目別に概括すると次のとおりである。

項目	評価の概要
ふれあう・交流する	<p>「<b>なごやか寄り合い事業</b>」 新しく丘頂自治会で立ち上げられ 11 地区となり、活発な活動となっている。</p> <p>「<b>住民の健康づくり</b>」 健康まつえ 21 推進隊を中心に「健診」「食」「運動」「こころ」の 4 部会による活動を積極的に展開している。</p> <p>「ほっき健康福祉まつり」、「法吉健康づくりスタンプカード」の実施など多彩な取り組みを展開した。</p> <p>「<b>高齢者の健康・生きがい対策</b>」 「松江市まめなかポイント事業」と並行して『福祉施設でのボランティア活動』を続けているが、やや低調になっている。</p> <p>「<b>地域の諸団体との連携強化</b>」 「災害時における地域での助け合い事業」等の協働、各種講演会の共同実施等、緊密な関係を維持している。</p> <p>自治会、民生児童委員協議会、福祉推進委員会など、関係団体と緊密に連携が図られている。</p> <p>「<b>学校との連携</b>」 法吉小 3 年生との「葉ボタン交流」、城北小での「ジャイモ大作戦」等により地域の小中学校の福祉教育への協力を行っている。高齢者クラブとの交流、法吉の大先輩などの交流活動は盛んに行われている。もう少し工夫が望まれる。</p> <p>「<b>あんぜん・あんしんネットワーク</b>」 通学時を中心に安全対策に取り組んでいる。</p> <p>「<b>子育て事業</b>」 「比津にこにこクラブ」「黒田にぎにぎクラブ」で母親と幼児同伴による子育て交流活動を精力的に実施され、有意義な活動が展開されている。</p> <p>「<b>ほっき寺子屋</b>」 法吉小 4～6 年生を対象に月 2 回、学習支援活動を実施している。</p> <p>「ほっきホット」 教室も魅力ある学習が続いている。</p>

	<p>「他地区社協との交流」 地区社協会長会での連携、福祉推進員会研修での交流を深めている。</p> <p>「福祉施設との連携」 福祉施設との交流。公民館での「ふれあい喫茶」の開催、高齢者生きがい事業での連携、など図られている。</p>
知る・学ぶ	<p>「相談窓口・情報提供体制」 活動パンフレット等で「相談窓口」の紹介を行っている。包括支援センター等との連携を強め、必要な情報のタイムリーな提供に努めている。</p> <p>「福祉講座・講演会等の開催」 公民館との共催で、福祉講座、健康講演会など開催されている。「まかせて会員研修会」「健康講座」「認知症サポーター養成講座」は例年実施している。</p>
見守り・支え合い	<p>「高齢者への見守り、訪問活動の強化」 民生児童委員、福祉推進員、自治会との連携は積極的に進められている。訪問ツール「いきいきマップ」は有効に活用されている。「まかせて会員」による平常時の見守り活動は継続している。自治会福祉部門との連携活動の推進を図っている。自治会の独自事業への助成を行い、活動の活性化を図っている。自治会福祉部門との連絡会を継続実施し、活動状況について情報交換が行われている。</p> <p>「認知症への対応」 認知症サポーター養成講座の研修を行っている。地区内の認知症についての交番、企業との情報交換等が必要である。地域での支え合いの方策について研究を進めている。</p> <p>「一人暮らしの高齢者等の生活課題への個別対応の充実」「災害時における地域での助け合い」 仕組みの中で、個別に行われているが、今後生活支援会議などで協議する必要がある。「災害時における地域での助け合い事業の充実」登録内容の見直しを逐次行うとともに「まかせて会員」の充実を図る必要がある。総会時の研修や防災訓練をとおして仕組みの趣旨を図っている。地区防災訓練をとおして「お願い会員」の安否確認避難訓練を行っている。毎年、著名な講師を招き「まかせて会員研修会」を開催し、意識の維持向上を図っている。</p> <p>「障がい者への支援」 「災害時における地域での助け合い」のしくみで支援している。「あったかスクラム法吉」への支援やイベントへの参加をとおして連携を図っている。</p> <p>「生活困窮者への支援」 「生活困窮者自立支援法」に基づくとともに市社協と随時協議しながら進める必要がある。</p>
伝え・広める	<p>「必要な情報の適切な提供」 会報「法吉社会福祉」、福祉推進員の「ひだまり」の定期発行により広報に努めている。「地域福祉の高揚への提案、提言」地区内外への提言、講師派遣など積極的に対応している。地区内の諸活動については、積極的に市社協等への提言を行っている。毎年、著名な講師を招き「まかせて会員研修会」を開催し、意識の維持向上を図っている。</p>
組織の充実	<p>「行政、市社協との密接な連携と財源確保」 地区の諸事業に市社協の地区担当者の参加を求め、指導助言を受けている。財源確保については民間補助金等の研究を進めたい。県社協のモデル指定(平成27～29年度)「地域が一体になった子育て・子育て支援の拠点づくり事業」を受け、新しい事業に積極的に参加した。</p>

### 3、法吉地区の現状と今後の課題

#### (1)法吉地区住民によるワークショップから見えてくるもの

法吉地区社会福祉協議会では「第5次法吉地区地域福祉活動計画」策定にあたり、計画づくりに住民の声を反映するために平成30年9月8日に「ワークショップ」を行った。

各自治会から多くの方々に参加をいただき、「高齢者部会」「障がい者部会」「子ども部会」に分かれ、法吉地区の現状を見つめ様々な意見を書き上げて頂いた。第5次福祉計画の基礎とさせていただいた。ワークショップは課題を見つけると同時にどうしたら解決につながるかも合わせて意見を出して頂いた。

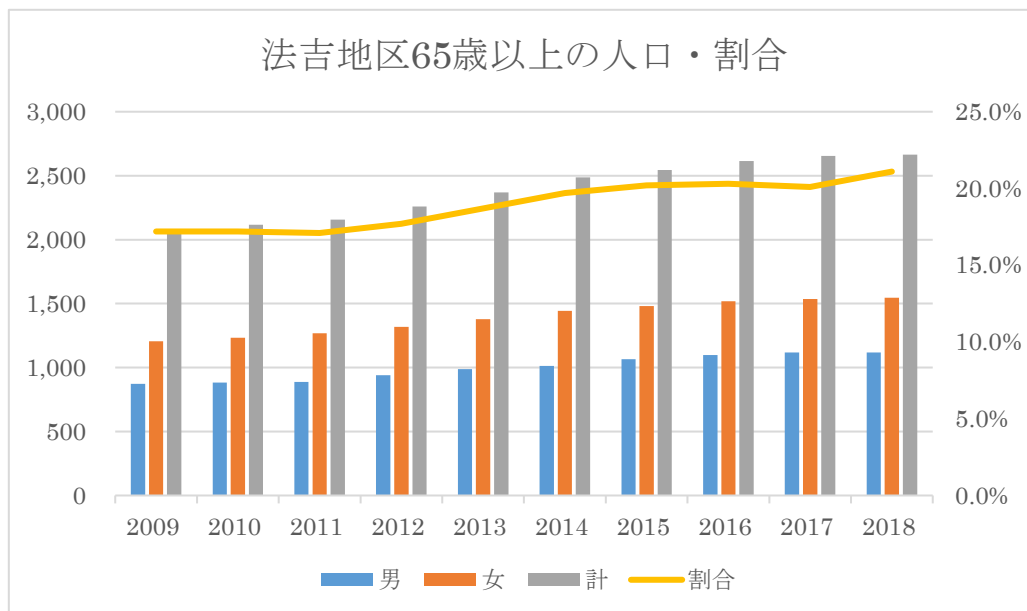
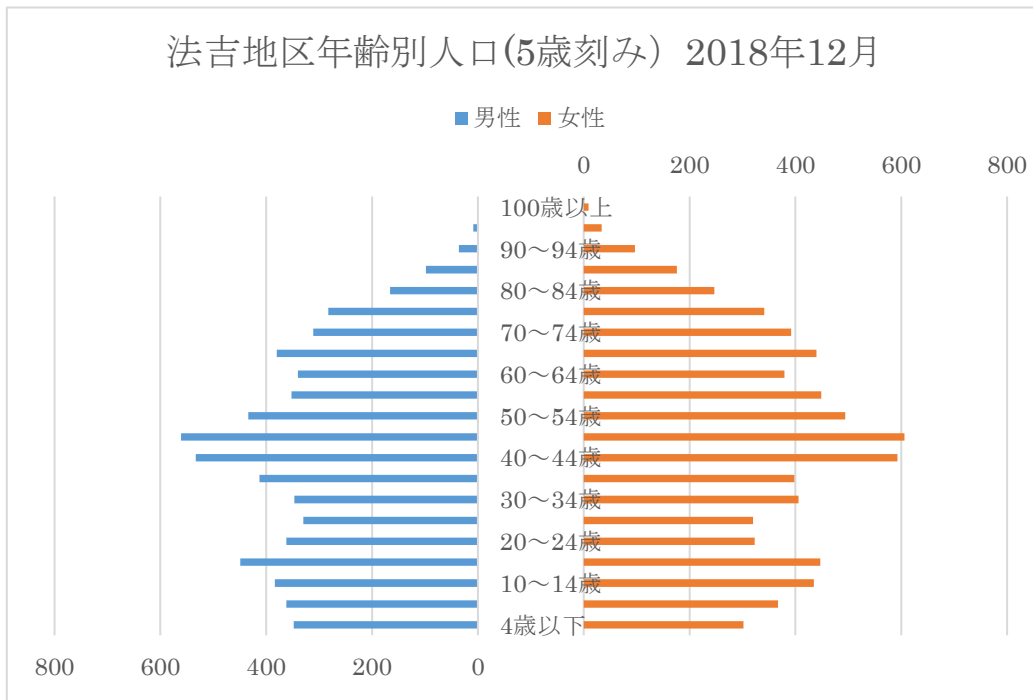
#### [ワークショップでの意見]

高齢者	地域での出会い、ふれあいのある行事の開催。「まかせて会員」の充実。「まだ皆様にはお世話にならない」と言われる方にも目配り、気配り。買い物が不便。ゴミ出し、草刈りが困難。近所づきあいが少ない。自治会未加入で把握できない。運動不足。家に閉じこもりがち。地域活動にも溶け込めない。遠慮がちな方にも研修会、研修旅行など情報提供。認知症研修、まかせて会員研修の充実。地区の民生委員さんがわからない。何を困っておられるのかがわからない。高齢化率が低くあまり関心がない。介護保険について分かっていない。高齢になる前の備えがわからない。空き家の増加。災害時の対応。
障がい者	要配慮者への対応を更に充実させる。道路など危険個所の確認。障がい者に対する理解や支援の広がる研修。障がい者の社会参加の促進。周りの人たちの支援の輪の広がり。啓発活動の充実。移動手段が困難。障がい者へどんな支援が必要なのか。
子ども	子どもと大人の交流事業が少ない。子どもの見守り。子どもだけで留守番をしている家庭が多い。友達が来てもゲームやテレビ、一人遊びに夢中になっている。交通安全。自転車。放課後の過ごし方。遊び場。家庭内で雑談がない。

ワークショップの参加者からは「住みたい 住みつけたい まち 法吉」にするための積極的な意見が出され、また、課題解決に向けての意見も交わされた。課題の中には、現在進めている地区社会福祉事業や公民館事業、そして、関係機関の進める事業の更なる連携、継続、発展を求める意見と新たな課題、外国人の方への地域での対応、子どもの遊び場づくりなどさらに充実することが望まれる。

#### (2)法吉地区の諸データから見えてくるもの。

法吉地区は高齢者の人口に占める割合は、21.20%（2018年12月現在）で市内でも一番低くはなっているが自治会によっては松江市の平均を超えている地域もあり、高齢化は着実に進んでいる。1世帯当たりの人口も2.36人で松江市の平均値2.26人よりも高くなってはいるが、高齢者のみの世帯も着実に増えている。人口の減少傾向は法吉地区でも進むとは思いますが、地域の子どもたちがこの地で成長し、この地にとどまること、この地に帰ってくることを望みながら様々な事業を進め、活力ある法吉地区を作ることが大切だと思われる。



#### 4、課題の整理と重点活動

策定委員会では、第4次計画の評価(振り返り)で明らかになった課題とワークショップ等をとおして住民意識・要望などを整理し、今後取り組んでいくべき活動を明確にした。その内容は、別に掲げる「第5次法吉地区地域福祉活動計画」のとおりであるが、重点活動は、次のとおりである。

##### ① 高齢者の生きがいがづくり「元気で長生き」

元気で長生き・健康・生きがいがづくりの強化

暮らしとつきあい 地域課題の把握と支援 相談窓口との連携の強化

生涯学習の推奨とボランティア・サポーターの養成

## 見守り・支え合いの充実「安全・安心な地域づくり」

防災訓練の実施

ご近所、見守り体制の充実

「おねがい会員・まかせて会員制度」の充実

## ③ 障がい者の社会参加「困難を抱える人への支援」

障がいに対する理解や支援の広がりを求める

障がいのある方々の地域行事等への積極的参加を促す

## ④ 子どもの健全育成と子育て支援「健やかで優しい法吉の子」

地域住民と子どもの交流活動の促進

学校との連携の中で木育、食育、栽培活動の促進

メディア(スマホ、ゲームなど)の対応、放課後、休日の学習支援などの継続と充実

## ⑤ 若者世代の社会参加の促進「三世代交流」

地域内のイベント（地区体育大会、文化祭、福祉まつり、コンサート等）への小中学生の積極的な参加・企画の促進

世代間交流活動の活性化

## ⑥ 学び・広報の充実「知ろう、学ぼう、広めよう」

メディア理解研修、多文化共生社会理解のための研修、まかせて会員研修の充実

「あいサポート」研修会 「認知症」理解のための研修、手話出前講座など

## 5、「第5次法吉地区地域福祉活動計画」の概要

### (1)福祉目標

「だれもが支え合う地域共生社会の実現を目指して」

### (2)計画期間

平成31年4月から平成35年3月までの5か年間

### (3)第5次法吉地区地域福祉活動計画の基本項目

- 高齢者の生きがいづくり
- 見守り・支え合いの充実
- 障がい者の社会参加
- 子どもの健全育成と子育て支援
- 若者世代の社会参加の促進
- 学び・広報の充実

## 6、第5次法吉地区地域福祉活動計画の推進体制

毎年度終了後に計画の進捗状況を明らかにし、その結果を次年度に反映させる。

第5次法吉地区地域福祉活動計画活動表

スローガン（福祉目標）

だれもが支え合う地域共生社会の実現をめざして

基本項目	活動名	具体的な取り組み		実施主体	財源	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	備考
生きたが 高齢者の いきいき	元気で長生き	①「法吉農園」の設立	(新)	「生きがい事業」	地区社協 自治連・運協	小学校との 協議					
		② 諸活動の情報提供 （「なごやか寄り合い」「健康まつえ21推進隊」など）	(充)	民協・福祉推進員・自治会	地区社協	実施					
		③「生きがい対策事業」との連携	(充)	「生きがい事業」	地区社協 自治連・運協	公募開始					
		④「高齢者クラブ」との連携	(充)	高齢者クラブ 「生きがい事業」	高齢者クラブ 地区社協	実施					
見守り・支え 合いの充実	安全・安心な地域づくり	① 向う三軒両隣の拡充	(充)	民協・福祉推進員 自治会・地区社協	地区社協	実施					
		②「法吉危険発見隊」の設立（安全・安心マップの作成）	(新)	自治会・高齢者クラブ等	地区社協 自治連・運協	組織作り					
		③ 地区防災訓練への参加	(充)	自治連・各自治会	地区社協 自治連・運協	実施					
障がい者の 社会参加	困難を抱える人の支援	①「あったかスクラム法吉親の会」活動の継続支援	(充)	地区社協	地区社協	実施					
		② 移動手手段の研究	(新)	地区社協	地区社協	研究					
		③ 社会福祉施設との連携	(新)	生きがい事業	地区社協	研究					
子どもと 子育て支援	健やかで優しい法吉の子	①「法吉農園」の設立、運営	(新)	「生きがい事業」	地区社協 自治連・運協	組織作り					
		② 学習支援事業の継続	(充)	法吉子育て支援 ネットワーク	市補助金	実施					
		③ 子育て支援事業の継続	(充)	法吉子育て支援 ネットワーク	地区社協	実施					
		④「子ども広場」の継続	(充)	子ども広場	子ども広場 実行委員会	実施					
若者世代の 社会参加の 促進	三世代交流	① 大人と子どもの交流事業	(充)	各自治会	地区社協 自治連・運協	実施					
		② 若者世代の活躍の場づくり	(新)	各自治会	地区社協 自治連・運協	研究					
学び ・ 広報 の 充実	知ろう、学ぼう、広めよう	① メディア理解研修	(充)	法吉子育て支援 ネットワーク	地区社協 自治連・運協	研究					
		② 多文化共生社会理解のための研修	(新)	自治連・各自治会	地区社協 自治連・運協	研究					
		③ まかせて会員研修会の充実	(充)	地区社協・運協・自治連	地区社協 自治連・運協	実施					
		④「あいサポート」研修会	(新)	地区社協	地区社協 自治連・運協	実施					
		⑤「認知症」理解のための研修会	(充)	地区社協	地区社協	研修					
		⑥ 手話出前講座	(新)	地区社協・運協・自治連	地区社協	秋開催 (年2回)					
		⑦ 公民館関係広報紙の充実	(充)	運協・自治連・地区社協	地区社協	実施					
		⑧「健康体操・スポーツシリーズ紙」発行	(新)	地区社協	地区社協	研究					
		⑨「なごやか寄り合い情報紙」発行	(新)	地区社協・福祉推進員	地区社協	研究					